

報告 1 デンマーク

現代にいきるグルントヴィを探して

デンマークの西部にあるユトランド半島は、北陸の能登半島を小さくしたような格好だ。中心都市・オーフスは、コペンハーゲン空港から飛行機で約 40 分。空港から町中まではバスで 40 分ほど走る。バスの運転手は間違えて郊外の高級ホテルに運んでくれたが、「NO ! ワレワレノハ エキマエノ 年季の入ったホ・テ・ル OK ?」

人口は約 30 万人。デンマークで 2 番目に大きい街だが、「世界で最も小さな大都会」だという。



北の外れにあるオーフス空港を左に見て、エーベルトフトの自治体に入ると数分してバスが止まった。ジュールスランド・folkホイスコーレ (Djursland Folkhøjskole) に着いた。玄関先で出迎えてくれた長い髪の女性がにこやかに、「ハイジとよんでください」「アルプスの少女のハ・イ・ジです」。この素敵で女性、ハイジこと、ハイディ・ヴォルカー (Ms Heidi Volcker) 校長。

ここは、17.5 歳以上 (入学したらすぐに 18 歳になる人を配慮) の知的障害者が学ぶ国民高等学校だ。1 月と 8 月、それぞれのコースが始まり、12 週、18 週、22 週の各コースがある。費用は「12 週コース」で、寄宿舎+食事+授業付きで 1150 クローネ (1 万 6 千円くらい) から。1 月 9 日からはじまったコースは、19 歳から 50 歳まで 25 名が学んでいる。8 月には短期コースもある。最大で 65 名まで受け入れることができるようだ。

「ん？ 1 月 9 日？ あ！ 今日がコースの初日なんだ」と思うまもなく、体育館にいくと、からだの大きなみんなが、サッカーに熱中していた。トレ



ーニングルームでは、トレーニング機器をどう使ったらいいかのトレーニング中。その隣の部屋では、任天堂の wii (ウイ) が大活躍で、ボーリング・ゲームの真っ最中だった。



日本語にすれば「国民高等学校」とされる「folkホイスコーレ」。スウェーデンやノルウェーにもあるけれど、発祥の地デンマークでは現在でも 100 校近くがそれぞれ特徴を持って運営されている。

創始者は、「デンマークの精神の父」=N・F・S グルントヴィ (1783~1872年)。19 世紀に活躍したアンデルセンやキルケゴールと同時代の人だ。彼の思想を、内村鑑三や宮沢賢治が学んでいる。

グルントヴィは、1830 年代のイギリスに学び、ケンブリッジで、教員と学生の共同生活の雰囲気驚いた。授業や講義以外でも、食事をともにし、広場で遊び、午後のお茶の時間をはさんで互いに話しあう生活。学生は教師の見識に敬意を払い、教師も学生を尊敬する。そんな体験が、folkホイスコーレでの教育の原型になっているようだ。

「folk」とは「ネーション (=国民)」の意味合いよりも、「ピープル」「folk」=民衆に近いようだ。

「folk」の連帯思想が、デンマークの人びとを結びつけて高度な福祉国家をつくりあげたアイデンティティではないか。(小池直人 (名古屋大学)『デンマークを探る』)



「国民高等学校は、デンマークがうんだ、素晴らしいシステムだともうが、あなたにとって創始者のグルントヴィはどんな存在ですか？」

抽象的と感じながらも、ハイジ校長にはぜひ聞い



てみたかった。

ハイジ校長は、その質問に答える前に、と前置きして話しはじめた。

- ・国民高等学校は、すべての人たちが人間性を高めていく場です。
- ・グルントヴィの頃は、ほとんど農民は小作人で、教育が充分受られない人たちでした。知識を広め、社会性を高めるチャンスをと。腰のまがりや身体の変調など、農閑期に、理論と身体のことを学び、身体をきたえようと設立されます。
- ・ここは「すべての人たちに発達できる教育を」の場です。それは、知的障害のある人たちも来れる学校という意味です。
- ・ここには入学試験也没有ありません。
- ・平等といえば、教育の機会均等とともに、ハンディがあっても、食費も住居費も同じように支払います。
- ・わたしは、グルントヴィが唱えた、ディスカッションをしながら人間性を高めることは大賛成です。議論することでお互いを知り、お互いをわかりあいます。お互い違った人たちが、相手と話し合い、相手を見て学ぶ。それは生涯続けられることでしょう。
- ・校長として「みんなの人に平等の機会を」「みんなと一緒に」を今勉強中です。
- ・「今を精一杯生きること」、それを学んでいます。
- ・この学生のみなさんは「今」に集中している。「瞬間」を充実して生きている。「今」を 100 %で



生きている。すごいです。

- ・コミュニケーションはとっても大事。言葉を使ってもうまく言えないけれど、言葉とはちがう方法でお互いの感情をキャッチしあっているのがよくわかります。
- ・わたしは数か月前、かないしいことがあったのですが、同僚はまったく気がつかなくても、障害のある人たちは気がついてくれて、いつもとは違ったかたちで接してくれました。その人に集中して接近しているからではないでしょうか。
- ・文字や数はわからないけれど、パソコンやメール、「フェイスブック」などを使って、いろんな表現もしています。
- ・すべての人に発達できるチャンスを与える学校にしたい。
- ・アクティビティセンターは「支援」の場ですが、ここは自分で全部やります。「助けて！」がないかぎり、なにもしません。わたしたちは「支援」者としているのではなく、「学ぶ場」をともにつくっていく者としています。
- ・そこに彼らは価値を見いだしているのではないのでしょうか。



この建物は、1880 年、貧困な高齢者のための施設として郊外につくられた。1900 年代初めには精神障害のある女性のための施設となった。1991 年～ 93 年は、ユーゴからの移民のための施設に。そして、2000 年に改造され、知的障害者のための国民高等学校として 2002 年に開校した。授業料と国庫補助金で運営され、補助金は総経費の 75 %まで補助される。

「8 月に 10 周年を迎えます」

「ぜひ、日本のみなさんも入学してください！」

赤毛のアンが先生になったような美しいハイジ校長が笑った。

(菌部英夫)